

学会参加レポート

25th the meeting of the international society for neurochemistry (ISN 2015) に参加して

矢吹 悌

(東北大学大学院薬学研究科薬理学分野)

オーストラリア・ケアンズにて2015年8月23日から27日に開催された25th international society for neurochemistry (ISN)、13th the Asian-Pacific Society for Neurochemistry (APSN) and 35th the Australasian Neuroscience Society (ANS) 合同学会に参加し、ポスター発表をする機会を得ましたので、その報告をいたします。また、学会に参加するにあたり、日本神経化学会から Travel Award を頂いたことは大変光栄なことで、国際対応委員会委員長久永真市先生をはじめとした学会関係者の皆様にこの場をかりて厚く御礼申し上げます。

ケアンズへは仙台から関西空港経由で往復しました。ケアンズはオーストラリア北部に位置し、グレートバリアリーフで有名な都市です。一年中温暖な気候であり、学会期間中はちょうど冬が明けた時期だったため、過ごしやすい気温でした。ISN Biennial Meeting に参加するのはメキシコ・カンクンで開催された ISN 2013 以来二回目で、オーストラリアに行くのは今回が初めてでした。会場のコンベンションセンターはケアンズ国際空港からシャトルバスで約20分くらいで、中心街からも近い位置にありました(図1)。私は24日の朝に到着し、学会に参加しました。

ISN 2015ではシンポジウムやワークショップおよびポスター演題が豊富で、数多くの知見を得ることが出来ました。特に、アルツハイマー病における GSK3 β シグナルの役割についてのシンポジウムでは、GSK3 β による Tau のリン酸化が SUMO 化を誘導し、Tau の分解を抑制すること、GSK3 β 活性の抑制が β -amyloid precursor protein 切断酵素である BACE-1 活性を抑制し、アルツハイマー病治療ターゲットになり得ることなど新しい知見を得ることができました。また、パーキンソン病における mitophagy の異常に対する LRRK2 の役割や、PINK1 によりリン酸化されたユビキチンと parkin が結合し、ミトコンドリアに集積することが mitophagy の目印になるなど興味深い知見を得ることが出来ました。一方、ポスターセッションでは、学術内容はもちろんですが、Phos-tag SDS-PAGE を用いた Tau リン酸化反応レベルの評価方法や今後研究に使用したい特異性の高い抗体など、研究技術・試薬関連においても有益な情報を得ることが出来ました。

私自身は26、27日に、大学院生時代に実験していた統合失調症モデルラットにおける CaMKII 活性の測定と認知機能障害についての研究発表をしました。South Australia 大学 Zhou 先生を初めとした多くの海外の先生方から助言を頂くことが出来ました。

最終日の夜に Farewell Celebration が Rainforest で開催されました。ISN Meeting の Farewell Celebration は毎回盛大ですが、今回は夜の Rainforest を貸し切って行われ、日本や海外の著名な先生方や若手研究者と交流を深めることができ、充実した時間を過ごすことができました。私はあまり観光と



図1 コンベンションセンター入口



図2 ケアンズ市内の様子

いう観光をしていないのですが、26日のポスター発表後に他の Travel Award 受賞者の方々と一緒にお土産を購入したり、街中を見て回りました（図2）。

海外の国際学会に参加することは、学術レベルの高さはもちろんですが、人生経験の上で重要なことだと思います。私たちのレポートを読み興味を持ってくださった方はぜひ Travel Award などの支援に積極的に応募し、国際学会に参加する機会を得て頂ければと思います。